

桜台小だより

<http://www.sagamihara-sakuradai-e.ed.jp/>

〒252-0321

相模原市 南区 相模台7-7-1

TEL 042-742-3674

FAX 042-741-7991

学校長 遠藤 洋子

平成31年 4月26日



それって 子どものため?

爽やかな季節を迎えました。校庭の桜は、淡いピンク色の花からやわらかな緑の若葉へと変わりました。銀杏の木も見事な新緑となり、柔らかな陽射しを受けて輝いています。また、中庭の藤の花が見事に咲き、美しい紫の花から甘い香りを漂わせています。



〈B棟C棟間中庭の藤の花〉

さて、新しい学年になって1ヶ月が過ぎようとしています。子どもたちはよい表情をして毎日元気に登校してきます。挨拶もよくできます。自分から先に挨拶してくれる子どももいて感心します。このように一日を気持ちよくスタートできるのは、保護者の皆様のお声かけや、地域の皆様に温かく見守っていただいているお陰だと思っております。ありがとうございます。

始業式に、「あこがれの〇年生になってほしい」という話をしました。挨拶をはじめ、様々な場面で下級生のよいお手本となる行動を心がけている姿が見られます。新しいそれぞれの学年の立場や役割に気づき始め、夢や希望をもってスタートできたように思います。

学校でめいっぱい頑張っている分、そろそろ疲れが生じる頃でもあります。家庭と違って学校は、大きな集団の中で生活していますので、楽しいこともたくさんありますが、自分の思い通りにならないこともでてきます。それは子どもにとって心地よいものではないかもしれませんが、集団の中で仲間と関わり合うことで子どもが成長していくのも事実です。自分と違う見方や感じ方をする友だちの存在に気づいたり、今まであまり交流のなかった友だちと思わぬ事で共有して驚いたり、喧嘩になりながらも一つの目標に向かって頑張れたことに感動したりするなど、集団の中だからこそ体験できることが学校にはたくさんあります。今、子どもたちは、立派な大人になるための学習をしているわけです。失敗や思い通りにならないことを乗り越えながら、次第に成長していくのだと考えると、年相応に壁にぶつかることも子どもたちの成長には欠かせないものだと思います。子どもに苦勞をさせたくないという大人の思いで、壁を取り除いたり、失敗させないように先回りして環境を整えたりしがちです。私たち大人が子どものためにと思ってやっていることが、もしかしたら、子どもが「自分で考える」「自分で乗り越える」機会を奪っているのかもしれない。時には立ち止まって、「それは本当に子どものためなのか」と問いかけてみることも必要かもしれません。

明日からの十連休を大いに楽しみ、心と体をリフレッシュさせて、5月7日(火)には、また元気に登校できるよう、保護者の皆様のご協力をよろしく願います。

桜台美術館

桜台小学校というと美術館が有名です。空き教室を、地域の団体や個人、学生・児童作品の発表の場として活用することで、地域の文化の交流と、子供たちが文化に親しみ感性豊かに育てられることを願って、平成18年6月18日に開館したということです。これまでに103回公開しています。多くの方のご協力があったの美術館であることを知りました。ありがとうございます。